

地域への愛着に影響を及ぼす要因に関する研究—地域のスポーツ環境に着目して—

スポーツビジネス研究領域

5009A030-5 岸 翔子

研究指導教員：木村 和彦 教授

1. 序論

近年、従来から存在していたプロ野球やJリーグといったプロリーグに加え、BCリーグやbjリーグなどのプロリーグが日本各地で発足している。こうしたプロスポーツリーグが地域に及ぼすインパクトは多様であり、なかでも地域愛着形成というインパクトは地域にとって非常に重要であると考えられる。過去の研究では、地域愛着は人々の地域に対する肯定的な態度や行動を促進する可能性を持つことが指摘されており、地域に対して愛着を感じている人を増やしていくことが地域の問題解決や地域の発展にとっては重要となる。

そこで、本研究では、近年我が国で相次いで誕生している地方のプロスポーツリーグとしてBCリーグに焦点を当て、①スポーツ施設の充実や、②地域におけるスポーツ活動の有無、そして③地域に根差したプロスポーツチームの存在やチームへの愛着といった地域のスポーツ環境の充実が地域愛着の規定因になりうるかを検証することを目的とする。

2. 先行研究の検討

過去の地域愛着に関する研究の多くは地域愛着の規定因を検討したものである。引地ら（2009）や江口（2002）、真鍋（1996）などによって地域環境への評価や居住年数が地域愛着に影響を与えることが明らかにされている。

また、地域愛着とスポーツの関係性に着

目した研究も散見される。「みる」スポーツに関する研究としては、二宮（2010）がプロスポーツ観戦に関与の高いファンほど地域への愛着が高く、また他のプロスポーツに対する観戦意図も高いことを明らかにしている。また、「する」スポーツに関しては、堤ら（2002）が総合型地域スポーツクラブの参加者を対象とした調査の結果から、総合型地域スポーツクラブによって最も効果があったとしているのは「地域コミュニティ形成」「誇り・愛着の形成」であった、と報告している。

しかしながら、「スポーツ施設の充実や地域のプロスポーツクラブへの愛着、個人のスポーツ活動が地域愛着の向上につながるのか」という問いに対して実証的に答えを示した先行研究はまだほとんど見られないというのが現状である。

3. 研究方法

(1) 研究枠組みの提示

本研究では、先行研究や仮説をもとに、以下のような分析モデルを設定した。

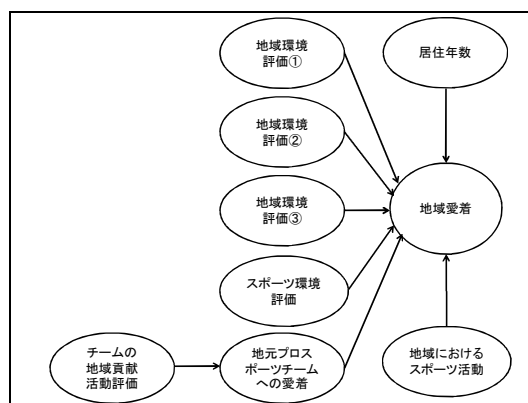


図1 分析モデル

(2) 調査方法

予備調査では、「地域愛着」尺度及び「地域環境評価」尺度の信頼性を確認した。その結果、「地域愛着」尺度は「ホームタウン」「地域への誇り」「持続願望」「継続居住」の4因子で、「地域環境評価」尺度は「利便性」「快適性」「交流」「スポーツ」の4因子でそれぞれ構成される結果となった。

本調査では、BCリーグが本拠地を置く6県のうち新潟県と長野県の地域住民を対象にインターネット調査を実施し、分析モデルの検証を行った。

4. 結果および考察

(1) 地域環境評価と地域愛着の関係

新潟県、長野県ともに地域愛着に最も強い影響を与えていた地域環境評価は「交流」因子であり、次に「快適性」因子が続いた。なお、スポーツ施設や地元スポーツチームへの評価である「スポーツ」因子も地域愛着に対して有意な影響力を持っており、地域のスポーツ環境の充実が地域愛着の向上に寄与する可能性が示唆された。また、「居住年数」も地域愛着に有意な規定力を持つことが確認され、先行研究を支持する結果となった。

(2) スポーツ活動と地域愛着の関係

個人のどのようなスポーツ活動が地域愛着向上につながるかを検証した。その結果、両県において地域愛着に影響を与えるのは、「スポーツ教室などスポーツを教えてくれる催しへの参加」と「自宅や近くの公園・道路などでのスポーツ」であった。また、新潟県では「学校開放を利用したスポーツ」、長野県では「スポーツの競技会や大会への参加」もそれぞれ地域愛着に対して有意な影響力を有することが明らかとなった。

(3) チーム愛着と地域愛着の関係

過去の研究においても明らかとなっていたなかったチーム愛着と地域愛着の関係性を検討した。本研究では、「チームが実施している地域貢献活動への評価がチーム愛着を高め、チーム愛着がさらに地域愛着を高める」という仮説モデルと「地域貢献活動評価と地域愛着がチーム愛着を高める」という2つのモデルを設定し、両モデルの適合度を検討した。その結果、新潟県、長野県ともに前者の「地域貢献活動評価がチーム愛着を高め、チーム愛着がさらに地域愛着を高める」というモデルの方が良い適合度を示し、仮説モデルの妥当性が確認される結果となった。

5. 結論

今回の調査結果から、①スポーツ施設や地元チームへの評価といった「スポーツ環境評価」、②スポーツ教室やスポーツの競技会への参加、自宅・近所でのスポーツ活動、そして③地元スポーツチームへの愛着がそれぞれ地域愛着に有意な影響力を持つことが明らかとなった。このことは、スポーツ施設の充実や個人のスポーツ活動の充実といった「する」スポーツ環境の充実とともに、地域に根差したスポーツチームの存在やチーム愛着といったような「みる」スポーツ環境の充実の両方が地域愛着の向上に寄与しうることを示唆するものである。

また、本研究では、プロ野球やJリーグといった従来の全国規模の大きなリーグだけではなく、今回の調査で焦点を当てたBCリーグのような地方に本拠地を置く小さなリーグの小さなチームもまた地域住民の地域愛着を高めることで地域に貢献するということを実証的に示すことができた。